

かつて蕪崎市中田町小田川にあった  
「国本女学校」をご存じですか？

明治35年(1902)、細田さだのという女性が主に裁縫を教える「国本女学校」を開きました。開校当時、今の蕪崎市・北杜市には私立の女学校はなく、さだのは先駆けと言えるでしょう。



国本女学校創立12周年記念写真(大正2年)

明治時代は農作業や子守などで小学校に通えない女子が多く、ようやく明治30年代に女子の小学校就学率が男子に近づいていきました。\*

しかし、小学校卒業後の女子の進学先は、県立の高等女学校(明治35年開校)や私立の女学校が甲府市にあったものの、蕪崎から通うには経済的負担がかかりました。

\*国本女学校が開校した明治35年、山梨県の小学校就学率は男子94.2%、女子66.3%。



女子教育といえば  
穴山の伊藤うた先生が  
有名ですが、私は知られて  
いないですよ？

農村の女子が通いやすい女学校をつくるため、さだのは子育てをしながら裁縫科の教員免許を取り、夫と協力して自宅で国本女学校を開きました。今の蕪崎市だけでなく、北杜市からも生徒が来て農閑期に学びました。

残念なことに、さだのは開校から3年後に亡くなりましたが、家族が志を引き継ぎ、国本女学校は昭和23年まで46年間続きました。



子ども用帽子の雛型(裁縫見本)

| 昭和23<br>(1948)                   | 明治40<br>(1907)   | 明治38<br>(1905)                    | 明治35<br>(1902)              | 明治32<br>(1899)  | 明治24<br>(1891) | 明治22<br>(1889)      | 明治16<br>(1883) | 明治9<br>(1876)            | 明治4<br>(1871)           |    |
|----------------------------------|------------------|-----------------------------------|-----------------------------|---|----------------|---------------------|----------------|--------------------------|-------------------------|----|
|                                  |                  | 34才                               | 31才                         | 30才   | 28才            | 20才                 | 18才            | 12才                      | 5才                      | 0才 |
| 戦後の教育制度の変化などにより閉校。46年間の歴史に幕を下ろす。 | 教え子の有志が細田貞子碑を建立。 | 死去。以後、国本女学校はさだの夫や子ども、地元の関係者が引き継ぐ。 | 小田川の自宅に国本女学校を開くことが県から認可される。 | 育児をしつつ小学校で裁縫を教え、東京の通信教育を受講。5人目の子を妊娠中に小学校裁縫専科正教員免許を取得。 | 小学校教員の篠原正夫と結婚。 | 近隣の女子に自宅で裁縫を教えはじめる。 | 中田学校(小学校)を卒業。  | 父が死去。母は実家へ戻ったため祖母に育てられる。 | 小田川村(現・蕪崎市中田町小田川)に生まれる。 |    |

略年譜